

01

08月2025

主を称え奏でる人生

by NCM2 CHOIR

全3page



ピアノリサイタルに行きました。年2回、夫がロサンゼルスの日系敬老ホームにメッセージにいきます。そこで、礼拝をするのですが、そのときにいつも賛美のピアノ伴奏をしていただく介護士の越川さんがいます。そして彼女から、今年もピアノリサイタルへの誘いがありました。

10年も前に私がロサンゼルスに引っ越してきた直後からあちこちでこのリサイタルのビラを見ました。初めていったときにも満席でした。そのピアニストの方は越川さんがいっている教会の牧師さんの娘さんだということでした。

今年も行ってみました。会場はロスのダウンタウンのディズニーホールの真ん前のすばらしいホールです。

まず、ピアニストの父である牧師さんからの流暢な英語で挨拶がありました。
「みなさん、皆さんがもっている才能は神様からいただいたものですね。今日はピアノで神様を称えましょう」

それに続いてその娘さん、浅井淳さんが、休憩なしでシューベルト、ショパン、ラベル、そしてラフマニオフのとてまあらあらしく難しい曲を披露してくれました。プログラムを読むとかなりの経歴の方です。世界中で活躍されていて帰宅してからウェブで調べたところ、15歳でジュリアードに入学したピアノの神童といわれた方でした。

Jun Asai, Piano

Saturday, August 9, 2025

2:00 p.m.

The Colburn School

The Zipper Hall

Impromptu Op. 90, No. 1 in C minor

Franz Schubert

Polonaise in F-sharp minor, Op. 44

Frédéric Chopin

Gaspard de la nuit

- I. Allegro agitato
- II. Non allegro—Lento
- III. Allegro molto

Maurice Ravel

Piano Sonata No. 2 in B-flat minor, Op. 36 **Sergei Rachmaninoff**
(1931 version)



During the concert, please turn off or mute your cell phone,
and refrain from talking. Thank you.

The use of cameras is prohibited.

ABOUT THE PIECES

(Partially from Wikipedia)

Schubert (1797-1828)
Impromptu Op. 90, No. 1 in C minor



Schubert's set of four impromptus, op. 90 were written in 1827, a creatively productive period only a year before his untimely death at the age of 31. The first impromptu is the longest in the set and despite its title, has an innovative structure that combines sonata, variation and through-composed forms, all while being strongly evocative of his famous song cycles in temperament. Several themes come and go throughout the piece, but all of them stem from the opening, almost funeral march-like theme.

The first Impromptu (*Allegro molto moderato*), written in C minor, is a distinctive mixture of sonata, variation, and through-composed elements. It starts boldly with dominant octaves serving as the background to a muted funeral march contrasted with an imitative, sensuously Italianate closing theme. It is also the only piece in the set not cast in ternary form. The main theme in C minor is introduced quietly, creating a processional rhythm that's maintained throughout the piece. The evocative narrative is reminiscent of Schubert's song cycles.



1曲暗譜することだけでき、たいへんですのに、難しい曲を披露してくれました。そしてこのプログラムの中には弾いた曲の作曲家の案内とともにこの方の証が載っていたのです。

その一つは「Who's your Daddy(あなたのお父さんは？)」という題でした。彼女は3歳のときにおもちゃのピアノに出会い、ほんもののピアノが欲しいとお父さんに言ったそうです。「それじゃ神様にお祈りしよう」と牧師であるお父さんと一緒に祈ったそうです。

つつましい経済の牧師家庭でしたが、ピアノが手に入りました。という書き始めで、天にいる父なる神さまは子供である私たちの思いをかなえてくださる方だということが書かれていました。

アンコールは当然というようなすばらしいコンサートの後、会場から出ると多くの教会の方々が机の上に置かれたきれいな絵の包みを配布していました。いただいてくるとそれは先ほどのプログラムにもあったようなトラクトでした。しかもすべて浅井純さんの執筆したものでした。

チケット入手する際に、ドネーションのコーナーがありましたし、入り口にドネーションの箱も置かれていましたが、入場料は無料。ひとえに伝道のためのコンサートでした。かなりの費用が掛かっていたはずです。

この教会の伝道への意気込みがうかがわれました。私たちも彼女のようならずば抜けた賜物でなくても少しでも伝道に役立つことができたらよいですね。

自分に与えられた分野で主をほめ称えたいものです。

竹下弘美



折尾クリスチャンチャーチ

住所 〒807-0873

福岡県北九州市八幡西区藤原 2-12-6

電話&FAX 093-692-9200 (9:00~13:00) URL <http://www.oriochristianchurch.net>